

## 地理的・歴史的観点から見たチュチェ思想

ベネズエラ・チュチェ哲学研究会会長  
イスベル・メヒアス

チュチェ思想は固有の原理と原則によって発展し体系化された独創的な思想です。  
金日成主席は次のように述べています。

「世界の主人として自由に生きようとする人間の性質を自主性といいます。」

チュチェ思想はチュチェ革命の指導思想であるだけでなく、朝鮮民主主義人民共和国における社会主義の建設と強化で枢軸をなしています。

金日成主席が闡明したように朝鮮における社会主義は自国人民が選択し、自国人民の意志と力によって発展するチュチェの社会主義です。

その結果、人民に幸福をもたらす社会主義が樹立しました。朝鮮で人民は保健医療、文化、教育、科学、技術など、すべての分野で社会的恩恵を受けています。それには朝鮮民主主義人民共和国ですべての人民の生活条件を向上させるために無料で割り当てる住宅建設に関心も含まれます。

このように朝鮮民主主義人民共和国の革命的な国家は人民の利害関係と要求を充たしています。

兄弟的な朝鮮民族の領土と一体化させることは人民に形成されるまでの社会的・人類学的見地でのみならず、世界革命の過程の中で見るときにもチュチェ思想の普及と連携および通報を通じてベネズエラの場合、ベネズエラ人民にその地理的・歴史的-一致性を知らせます。

チュチェ哲学は革命の過程に産生する努力と意思の結合の必要性を提起しています。

学術、分析の範囲内における地理的・歴史的展望はこのような分析から社会、経済、文化などに対する研究の可能性を提起しています。

このような意味でベネズエラにあるチュチェ思想に関する哲学研究グループにとって地理的・歴史的見地でチュチェ思想を普及し討論することは、今日、朝鮮民主主義人民共和国の兄弟的民族が経ている政治的過程と経済、社会文化活動を知るようになります。実例に、チュチェ革命をおこなっている朝鮮民主主義人民共和国の形成からこの国が人民が社会的正義と平和、公正さと自主権、自決権を享受する世界の建設におこなった寄与、チュチェ思想が示している通りに人民、つまり人民大衆の中で発揮され強化される革命的原則にいたるまで連関の中で現実アプローチするようになります。

70 余年間の革命とその過程にチュチェ革命が人民大衆に正義あり尊厳ある生活を享

受させ、祖国愛と祖国守護にたいする教育を与え、難関を克服するための人民の知識を増大させる科学、技術の発展をもたらす道を開拓し、その道へ確固として前進させたことにたいする研究でチュチェ思想の重要性を強調しなければなりません。

結論的にいえば、チュチェ思想はアメリカ帝国主義とその追随勢力に反対してたたかう上で自己の領土を守り、社会的正義と平和が実現した世界の建設に力を与えている組織化された人民の指導哲学です。